

[10月から、月例会・部会・委員会、再開のお知らせ]

会 員 各 位

公益財団法人 協 和 協 会

代表理事兼専務理事 清原淳平

政府の感染対策と社会活動共存方針に基づき

10月から月例会・部会・委員会を再開します

謹啓 9月中旬まで30度を越す猛暑が続きましたが、やっと涼しくなってきました。昔から「暑さ・寒さも彼岸まで」といいますから、その点、この格言は当たっていますね。

頭記のように、政府が、ウイルス感染対策と社会生活とを共存させる方針を打ち出し、また、「GO TO トラベル」の例外としての「東京から出るな、東京へ行くな」の指示も10月1日を以て解除されますので、当団体も本格再開の決断をいたしました。

なお、8月28日に、安倍晋三総理が病気・退陣を宣言され、自由民主党総裁選挙によって、菅義偉先生が選ばれ、国会の承認も経て、9月16日菅義偉内閣が発足いたしました。ここに、難病を推して7年8ヵ月にわたって安定政権を維持された安倍晋三先生の御苦勞をお察し申し上げ、心からの敬意を捧げますとともに、その安倍政権を引き継いだ菅義偉総理の御活躍を心から念じ申し上げます。安倍前総理にはお見舞いの書状を差し上げ、菅総理には御祝いの書状を会館事務室へお届けいたしました。

そして、その菅義偉内閣においては、総理の「働く内閣」の言葉に相応しい方々が閣僚に就任され今後の活躍が楽しみです。特にその中で、当「公益財団法人 協和協会」の代表理事兼会長代行（姉妹団体「時代を刷新する会」の会長代行でもある）岸信夫衆議院議員が、防衛国務大臣として入閣されました。岸信夫先生は、行政府ですでに防衛副大臣や外務副大臣を歴任されておられますが、今回、防衛国務大臣として初入閣です。当両団体の創立者・岸信介先生も彼の世でさぞ喜んでおられることでしょう。就任の翌日、大臣御就任お祝い状とともに、三越デパートで購入した「七宝焼の赤富士」の大幅を、御就任記念として、会員一同名にてお届けしました。

次に、頭記にありますように、当団体の10月からの月例会・部会・委員会についての事項に移ります。まず、月例講話会については、会場となる議員会館会議室の入口には会館管理課がアルコール消毒液を置いておられますし、当執行部としても、出来るだけ広い会議室を抑えて、座席の間隔を空けるなど、できるかぎりのことをしておりますので、ぜひ、お出掛け下さいますよう、御願ひ申し上げます。 (右ページへ続く)

次に、各部会・委員会についてですが、各部会長・各委員長との御相談では、いまのところ、開催予定ですが、まだ、会議室（1ヵ月前に予約できる）が決まらなかったり、議題が決まらないところが多いので、決まり次第、御案内状をお送りいたします。

部会・委員会は、月例会のように人数は多くありませんので、通常の広さの会議室を使いますが、会館管理課がやはり会議室入口にアルコール消毒液を置いてくれておりますし、当団体としても座席の間隔を空けるなどの対策をとっておりますので、これら部会・委員会へもぜひお出掛け下さいませよう、御願ひ申し上げます。

また、3月以降、会員の皆さま方が、新型コロナウイルスに感染されないよう願って、新型コロナに関する参考資料を見つけては、それをコピーして、毎月末の「お知らせ」に同封してきておりますが、今回も、『免疫力の仕組み、免疫力を上げるために！』との趣旨の医学資料を見つけましたので、コピーして、ここに同封いたしました。御参考にしていただきたいと思います。

なお、安倍晋三先生が総理を辞任されましたが、当「公益財団法人 協和協会」およびその姉妹団体「時代を刷新する会」は、引き続き活動を継続いたします。この両団体は、岸信介元総理の精神に基づいて創られた団体です。経過を述べますと、清原は、岸信介先生が総理大臣在任中、西武グループを創立された堤康次郎衆議院議員（元衆議院議長）の（政治・経済双方に関する）総帥秘書室に勤務していたことから、堤康次郎に付いて総理官邸に参上したり、西武の「箱根湯の花ホテル」での、吉田茂元総理、岸信介現職総理と、堤の3者会談「清談会」に随伴して御面識を得ていたご縁もあり、降って昭和53年秋から、岸信介元総理創設に関する4団体の執行を逐次委嘱され、岸信介創立会長から、いずれの団体も岸信介先生の御信念と手段によることを命ぜられ、清原も「命ある限り岸信介先生の精神・指示を順守して尽瘁いたします」とお約束したからであります。

岸信介先生というと、1960年の安保騒動の時に、左翼の論客・報道によって、非難・攻撃した書物が沢山出て、それが種本になって、今日でも、右翼、悪徳、悪運、怪物等々の言葉を冠した書物が多く出ていますが、昭和53年秋から昭和62年8月7日に逝去されるまで約10年にわたり、岸信介先生創立の各団体の執行役員として接し、その御発言を聞いた私としては、岸信介という人物は、戦前・戦中、戦後、その置かれた時々々の地位において、常に全力を上げられた方で、傑出した人物であり、これほど、世間から誤解を受けている人物はいない、と痛感し、残念に思っております。

そうした岸信介元総理の人物・識見を知っていただきたく、先月、昭和56年に創刊した機関誌『提言』（第一号）をコピーしてお送りしたところ、「その第2号以下も読みたい」との声が挙がりましたので、岸信介先生の人物・識見の一端が分かっていたいただければありがたいと思い、その『提言』第2号をコピーして、ここに同封させていただきました。御一読をいただけますれば、幸甚に存じます。まずは、取り急ぎ「10月のお知らせ」啓上にて

敬具